

弓とともに歩んだ町・利府町 ～伊達家の精神を継ぐ、文化体験型武道ツーリズム～【テーマ 武道】

宮城県利府町は、仙台市の北東に位置し、3つのJR駅と4つのインターチェンジを有するほか、香港・台湾への国際線が運航する仙台空港からも車・電車で約30分と、東北有数のインバウンド受け入れ拠点として非常にアクセスに優れた町である。そんな利府町は、古くから弓文化が根つき、坂上田村麻呂が戦勝祈願を行った八幡神社や、八幡太郎義家が遠矢の稽古を行ったとされる伝承が残る、“弓とともに歩んだ町”である。江戸期には伊達家が日置流印西派弓術を正式採用し、礼法と精神性を重んじる武家弓道文化が育まれ、現代では伊達印西派弓術研究会（主宰 黒須憲氏）によりこの系譜が再構築され、「伊達印西派弓術」として体系化されている。一方、東北地方には青森・岩手・福島それぞれに大規模な流鏝馬イベントが継承されており、“東北の流鏝馬文化の縦のライン”が存在するが、宮城県内ではその系譜が断絶していた。利府町では東北全体でインバウンドや交流人口の拡大にも資する取り組みとして、この弓と馬事文化を繋ぐとともに、東京2020オリンピックのレガシーとして2023年に「利府スポーツ流鏝馬」を初開催。町の弓文化の再解釈による現代的な体験イベントとして、初年度1,500名、翌年には2,700名超を動員し、高い反響を得た。しかしながら「なぜ利府町で流鏝馬なのか」という文化的意義が町民と十分に共有されず、外向けの演出以上に“町民と文化を共有・再発見し、育てる場”の必要性が明確となった。今回の事業では、今年3月に新設された弓道場を核に、「伊達文化×弓道」を体験プログラムとして体系化。町民自身が弓文化の価値を語り、誇りをもって発信できるよう、地域内外に開かれた武道ツーリズムへと再構築を進める。

①お呈茶カフェと“利府を知る入口”体験

訪日外国人や国内来訪者を対象に、体験の導入として町民と連携したカジュアルなお呈茶カフェを実施。坂上田村麻呂の戦勝祈願や八幡太郎義家の遠矢稽古、留守氏の居城など、利府町に伝わる弓文化の歴史や精神性にふれる“入口体験”として構築する。語り部役には地域のボランティアを中心に据えつつ、必要に応じて町長や歴史に精通した関係者が象徴的に登場。全体としては町民が主体となって運営し、地域の人とふれあいながら「なぜ利府町で弓道なのか」を体感的に理解する導線を整える。「体験前に利府を知る時間」を設けることで、歴史的背景や精神文化の重層性を伝え、体験全体の深みと意義を高めていく。

②「利府の弓がよみがえる物語」～新たなスポーツ文化の創造に向けて～

体験導入コンテンツとして、利府町の弓文化の再発見から「利府スポーツ流鏝馬大会」創出に至るまでの背景を、映像制作によって分かりやすく可視化する。坂上田村麻呂の戦勝祈願、八幡太郎義家の遠矢稽古、留守氏の居城など、町に息づく弓の伝承とともに、現代に文化をつなぎ直したプロセスを物語として伝える。この大会は、青森・岩手・福島に続く“東北の弓文化の縦ライン”を宮城から再接続し、将来的には「東北から世界へ」と発信していくことを目指す取り組みでもある。ナレーターには町民や高校生弓道部員が加わり、地域の歴史を若者が伝える構成に。単なる体験の前に、“なぜ利府で弓なのか”を共有することで、文化理解を深め、将来の流鏝馬復活や弓道人口の裾野拡大へとつなげていく。

③伊達文化×弓道：しきたり体験プログラム

古代からの弓文化は、江戸期には仙台藩・伊達家に継承され、日置流印西派弓術が正式な武家弓術として採用された。本プログラムでは、伊達家に伝わるこの系譜の継承と保存を目指す伊達印西派弓術研究会と東北学院大学名誉教授 黒須憲氏（弓道教士七段）の協力のもと、新たに体験用にアレンジした『伊達印西派弓術体験プログラム』を提供する。座射（座って射る作法）や射礼の型などをわかりやすく導入し、観光客でも体感できるスタイルに設計する。さらに、義家の「遠矢」の逸話になぞらえ、的を遠くに置いた象徴的射法体験も加え、利府町の弓道文化の特異性と歴史的価値を体感できる観光コンテンツとして整備していく。

また、体験の最後には、弓道体験の達成を記念し、伊達家の意匠や武家文化を取り入れた巻物風「的中証明書」を贈呈。金箔風の家紋や「一矢必中」の言葉をあしらい、体験の記憶を形に残す特別な仕掛けとする。

④ 伝統工芸ワークショップ

矢羽根細工や家紋入り手ぬぐい制作など、伊達文化・弓道に関連するクラフト体験を実施。地域の職人が講師を務め、訪問者が持ち帰れるオリジナル作品を制作する。

⑤歴史コスプレ×フォトセッション

伊達武将の甲冑や忍者装束、家紋入り羽織などを身にまとい、弓道場や歴史的ロケーションでの撮影を楽しむ体験。弓を構えるポージングなどもレクチャーし、訪日外国人向けにフォトジェニックな演出を施す。

⑥ 地元弓道強豪校との交流（利府高校等）

利府高校弓道部などとの合同体験や交流会を通じ、競技を媒介とした異文化コミュニケーションの場を創出。地域の若者との接点も重視する。

以上のコンテンツの組み合わせにより、利府町に根づく弓と精神文化の系譜を活かし、新たに「しきたり体験プログラム」として造成・商品化を行う。事業内の取り組みとし、モニターツアーを行い、体験価値・受入体制・導線等の検証をする。その上で、連携先であるOTA「アクティビティジャパン」への掲載や、JTBが運航するクルーズ船での販売展開などを通じて、販路を確保しながら、持続的な観光コンテンツとしての定着を図る。

次年度は実際の実売・ツアー運営を目指す。ツアーコーディネートは観光協会・ツアー当日までの手配・ランドオペレーターは、ユーメディアが行う。販売の流れとしては、2点で想定。

1点目、アクティビティジャパンでのOTA掲載⇒販売成立⇒ランドオペレーター(当日までのツアー管理はユーメディア)⇒当日のツアー運営(観光協会)・コンテンツ体験(黒須先生・利府高校等)。

2点目、JTBによる、クルーズ船オプションツアーによるツアー販売。

【その他取組】

- ・関係者を交えたキックオフの運営管理費(議事録作成等含む)
- ・モニターツアーを通じた、アンケート作成
- ・HP作成(コンテンツ紹介・ツアーモーション・コンテンツプロモーション用)
- ・多言語版のコンテンツ紹介チラシ作成
- ・コンテンツ紹介ポスター作成
- ・モニターツアー前の宮城県内留学生・外国人に向けたプレイベント開催
- ・モニターツアー振り返り・意見交換会の実施

■申請機関 利府町スポーツ振興課

■窓口 株式会社ユーメディア

■窓口 雅プロ株式会社

■コンテンツ造成 伊達印西派弓術研究会、東北学院大学名誉教授 黒須憲氏

■コンテンツ造成 利府町観光協会 観光ボランティアガイド

■販路形成 アクティビティジャパン

■販路形成 株式会社JTB

課題

①市民の理解と参加の拡大：過去の流鏝馬企画も継続困難に

②販路形成や連携の確立：コンテンツの販路形成のための旅行会社・OTAとの連携が未整備

③PR力の弱さ：情報発信・多言語化を担う人材不足

④地域連携と担い手の発掘：観光・教育・工芸など横断連携と持続可能な運営体制に係る人材の不足

◆課題①に対するKPI：地域への関心度の向上

体験参加者(町内)に対する事後アンケートを通じて、「利府町と弓道文化の関係性への理解」「地域への関心の高まり」に関する項目を評価し、共感・理解が得られた割合を指標とする。

(例：体験後に“利府町に対する関心が高まった”と回答した参加者が80%以上)

持続可能な体験プログラム運営の担い手育成：町民の運営ボランティア協力人数 延30名以上

◆課題②に対するKPI：地域での経済効果・観光消費額

アクティビティジャパンを通じたOTA体験掲載数：2商品以上。ツアーは1本以上。JTBのクルーズ船オプションツアーの商品化1本。(今年度のオプションツアーはすでに決定済みのため、来年度のツアー企画に本コンテンツを組み込むことを目指して調整を進めていく。)

◆課題④に対するKPI：PR力の向上

制作・運用するPRツール数（多言語チラシ・動画・SNSアカウントなど）：5媒体以上

SNSやOTA上での「いいね」「シェア」などエンゲージメント数の増加率

体験ページのPV数（月間）：1,000PV以上

国内・インバウンドのいずれも視野に入れて体験を造成する。

■ インバウンド

・仙台空港の国際直行便（香港・台湾）を活かし、武道や日本文化に関心のある富裕層・親子・カップル層を想定

・仙台港に寄港する外国クルーズ船の乗客を対象に、利府町での武道体験を組み込んだオプションツアーの販売を目指す。寄港中、乗客は「船内に留まる」か「現地の観光ツアーに参加する」かを選択するため、その現地観光の選択肢として利府町への誘客を図る。まずはモニターツアーで体験価値を検証し、次年度の本格販売に向けて、外国船取扱会社（GMT・HIS等）へのセールスを進める。

■ 国内

・弓道や武道経験者を中心としたスポーツ愛好者層（特に東京圏）

・学習指導要領に適した伝統文化体験として、首都圏からの修学・研修旅行先としての活用も視野に

■伊達政宗の重臣・留守氏の拠点であり、岩切城跡や旧利府街道など戦国期の史跡が今も町に残る。また、坂上田村麻呂の東征や八幡太郎義家の遠矢稽古、流鏝馬にまつわる伝承など、弓と武士の記憶が重層的に息づく土地である。このような背景から、単なるスポーツ体験にとどまらず、“歴史と精神性を伴った弓道文化体験”を観光資源として成立させ得る稀有な地域といえる。伊達文化×弓道という独自の文脈により、他地域にはない深みを持った武道ツーリズムを展開できるポテンシャルを備えている。

■利府高校弓道部や地元職人と連携し、町内の文化人材や教育機関を巻き込んだ「地域参加型体験」の設計。

■仙台港から車で30分圏内とアクセス性にも優れ、クルーズ船寄港時のオプションツアー導入地としても好立地にある。

■ “もののふ体験”の継続商品化・パッケージ展開

弓道体験・甲冑着付け・必勝祈願・巻物証明書などを一体化した“もののふ体験”を、アクティビティジャパン等のOTAを通じて商品化・継続販売。

■ 教育旅行・学校連携による継続導入

利府高校・中学校の弓道部と連携し、礼法・精神文化を学べる体験プログラムとして、修学旅行や校外学習向け商品に展開。

■ 国内外の旅行者に向けた多言語プラットフォーム「アクティビティジャパン」への掲載。

■ 町が新設した弓道場を核とし、地元高校（利府高校弓道部）や地域住民との協働による体験プログラムの継続運営。

■ クルーズ船寄港と連動したオプションツアー化により、持続性・収益性の高い観光ビジネスへ展開。

目標到達点

ターゲット

地域性

将来性

継続性

造成コンテンツ

実施体制